

令和8年1月16日(金)に町内会役員を対象とした「令和の町内会講座」を開催しました。講座には25名の方にご参加いただき、町内会の現状と課題や令和の町内会運営のヒントについての講義があったのち、グループに分かれて「町内会の伝わる情報発信～町内会活動を効果的に知ってもらう工夫～」をテーマとしたワークショップを行いました。

《開催概要》

日 時：令和8年1月16日(金) 10:00～12:30

場 所：青葉区役所 参加者：25名

内 容：講義／ワークショップ／発表・まとめ



■ 講義

講師の(株)KITABA 酒本宏氏から、町内会の現状と課題から令和の町内会運のヒントとして、住民に町内会活動を効果的に伝え、加入促進につなげるためのデジタル・アナログ両面での情報発信の工夫などについて効果的な手法や他町内会の事例等を交えた話題提供が行われました。

■ ワークショップ

ワークショップでは、6グループに分かれ、「LINEオープンチャット」の実践を行ったのち、多世代に伝わる情報発信の工夫と課題について意見交換を行いました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

ワークショップ全体のまとめ

●世代に応じた情報発信の方法を検討する

- ・ 回覧板（紙）だけでは情報が伝わりにくい一方で、高齢者には紙媒体が必要であり、紙とデジタルの併用が重要である
- ・ 町内会の実情に応じて、最適な情報発信手段を選択する必要がある

●デジタル化を無理なく進める

- ・ デジタル化を進める際は、負担が誰かに集中しない体制づくりが必要である
- ・ スマートフォン研修など、デジタルへの不安を和らげる取組やデジタル化の入口のハードルを下げる工夫が必要である

●担い手不足・高齢化への対応を考える

- ・ 役員や班長のなり手不足、高齢化が深刻な課題である
- ・ 若い世代や現役世代への情報発信が、担い手確保につながる
- ・ 高齢者世帯の見守りや支援体制の充実も必要である

●若い世代との接点づくりを進める

- ・ LINEやSNS、インスタグラムなどを活用した発信が有効である
- ・ 若い世代の協力を得て、情報発信や運営を行うことが重要

●災害時を見据えた情報共有を検討する

- ・ 災害時や非常時の連絡手段として、LINEオープンチャットの活用ができるとよい
- ・ 公園清掃の有無や安否確認など、平時・非常時の両面で活用していきたい

グループごとの意見・アイデア

ワークショップでは、回覧板(紙)とデジタルを併用した情報発信の必要性が多く挙げられました。LINEやSNSを活用した情報共有や災害時の連絡手段としての活用が期待される一方で、デジタル化を担う人材の確保や負担軽減が課題として示されました。

グループ 1

- ・ 紙とデジタルの情報発信方法を組み合わせ、世代を超えた情報共有を図る
- ・ 町内会の実情に合った情報発信手段を選択する必要がある
- ・ スマートフォン研修の必要性が挙げられた

グループ 2

- ・ 役員のなり手不足や高齢化が深刻な課題として共有された
- ・ 若い世代への情報発信を強化する必要がある
- ・ 高齢者単独世帯の見守りを充実させたいとの意見が出された

グループ 3

- ・ デジタル化の入口のハードルを下げる工夫が必要
- ・ 中高生や大学生と連携し、活動への参加を促す
- ・ 紙媒体を残しつつ、先進事例を参考にデジタル化を進める

グループ 4

- ・ 地域課題への行政からの支援や災害時対応について行政からの情報提供があるとよい
- ・ 弱者や高齢者への対応を含めた体制づくりが必要である

グループ 5

- ・ ホームページ更新情報をLINEオープンチャットで周知したい
- ・ 災害やクマ出没などの非常時連絡にLINEを活用したい
- ・ 若い世代を引き込むため、InstagramやSNS活用を検討する

グループ 6

- ・ LINEオープンチャットを活用した情報共有を進めたい
- ・ 気軽に意見を出せる仕組みづくりが必要
- ・ 若い世代が参加しやすいよう、SNSを活用した情報発信を行う

